



連絡を取り合い、クラウド等のネット環境も活用して論文を改訂した。すごい世の中になったなあと思いつつ、この1月に再投稿。さてどんな結果になるか。(堀田)

やかに行われた。Hさんの語り口は変わらず、とても嬉しい再会だった。伝統文化を大切にしている人、見守り続けている人がいることに元気ももらった。(浦山)

天龍村^{むかがた}向方で14年ぶりの再会 「お潔め祭り」の視察で天龍村向方を14年ぶりに再訪した。舞いは、当時お世話になったHさんをはじめ住民の皆さんに地元のフリースクールの先生や生徒、インターネットを見て県外から来た方も加わり、賑



祭のさいごに新年のしあわせを祈る
(1月3日)



Insight みどりのフカヨミ

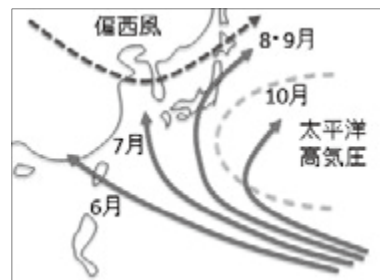
話題になったあのコトこのコトをその後の情報とともに深く読み解きます

～複雑な動きをする台風の原因は？～

2016年の台風10号は複雑な動きをして、史上初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風となりました。この台風のようになかなか進路が定まらない台風は、普通の動きをする台風となりが違うのでしょうか。ここでは、複雑な動きをする台風の動きについて解説します。(大和 広明)

① 一般的な台風の動き

台風の動きは川面の渦に似ています。川の渦は周囲の水の流れに流されて移動します。台風も同じく周囲の動き(=風)に流されます。台風の周辺の風は、太平洋高気圧の周りにそって時計回りに吹く風と偏西風があります。この2つの風は季節によって位置を変えますので、台風の移動経路は季節によって変わってきます。日本のはるか南の地域で発生した台風が、太平洋高気圧の縁に沿って北西に進み、ある程度北上すると、偏西風が吹く地域で北東に進むようになります。



② 2016年台風10号の複雑な動き

台風10号は複雑な動きをしたことにより、二つの史上初の出来事が記録されました。いずれも異常な経路をたどったことによって生まれた記録です。台風10号の卵「熱帯低気圧」は日本の南東で発生しました。そこから太平洋高気圧の東風に流されて日本の南へ西進し、台風に成長しました。普通の台風であればそのまま、偏西風に乗って北東に進むはずですが、偏西風が弱く、周囲の他の台風の影響を受けてさらに西の方へ移動しました。その後、沖縄の東を經由して北東方向へ動いて関東の南東で北西に進路を変え、岩手県へ上陸しました。この北西への進路変更には偏西風が関わっています。偏西風の蛇行が大きくなり、流れから切り離された上空の渦が日本海にありました。その南東側に台風が移動したことにより反時計回りの渦に巻き込まれる形で北西に進みました。以上のことをまとめたのが下の表です。



台風10号の出来事と複雑な動き

史上初の出来事

- ①寿命が最も長い(9日と21時間)
- ②岩手県に最初に上陸したのは史上初



複雑な動きの原因

- ①他の台風の影響
- ②通常と異なる偏西風の位置
- ③上空の渦の影響